**「イエスはあなたにどれほどのことをしてくださったか」 2016 06 19 ルカ 8:26-39 安達均**

主イエスキリストの恵みと愛が、この礼拝堂に集まった会衆の心の中に豊かに注がれますように。

4月と5月と、それぞれ二泊づつ、アメリカ福音ルーテル教会の本部のあるシカゴにカンファレンスのために出張した。　思えば、どちらの訪問も共通の話題、ELCAの人種にかかわる出張だったといってよい。　というのは、ELCAは95パーセントはヨーロッパ系移民によってしめられている。ところが、アメリカ全人口におけるヨーロッパ系移民はどんどん減っている。

たとえば、ある統計によれば、2013年には、アメリカで生まれる赤ちゃんの50パーセント以上が、有色人種になったそうだ。その割合はどんどん上がっている。　また、移民においても、ヨーロッパ系アメリカ人の割合はどんどん減っている。それでもELCAにおける有色人種の割合は増えておらず、いったいこの教会は、有色人種を積極的に受け入れようとしているのか疑問さえいだく。実は1988年ELCA合併時には、有色人種の割り合いをおおきく引き上げるビジョンがあったが、全然達成されず、あせりがある。

さて、福音書箇所の話題に入っていきたい。イエスと弟子たちはゲラサ人地域にやってきた。　そこには、豚を飼う人々がいた。ユダヤ人は、豚は汚れたものであり、豚を飼ったり食べたりする習慣は無かったから、ゲラサ人との間には、信仰的にもまた文化的にも大きな隔たりがあった。　ゲラサ人は、あきらかに、異邦人だった。

しかし、イエスのミッション、愛は、ユダヤ教やユダヤ人文化を越えて、ゲサラ人の地域にもおよんだ。　ゲサラの人々の中に、悪霊にとりつかれてしまった男がいた。　その男は何年もの間、衣服を身につけず、家にも住むことはなく、墓場に住んでいた。　彼は、鎖につながれ、足枷をはめられていた。

すっかり行動を束縛されていたわけで、現代の基準に照らし合わせて考えるなら、彼は精神病をおっていたのだろう。　しかし、イエスがその悪霊どもに、そのゲサラ人を離れ、豚の群れに入っても良いことをお赦しになるなら、そのゲサラ人の男は、正気をとりもどした。　この話、とても変な話であり、21世紀に生きるわたしたちには、関係の無い話のように聞こえるかもしれない。

しかし、この話は現代においても、多くの人々が、何かにとりつかれてしまっているという点で共通点があるのだと思う。お金、酒、危険ドラッグだとか、あるいは、この世の誤まった幻想とか、あるいは、十字架に象徴された神の赦しと愛からはかけ離れた宗教に、束縛されてしまうという。　そして、よくよく考えると、現代の人々の中に、また皆様方の中にも、私自身もこの男と似たような経験をしたという方がいるのではないだろうか。

わたしの話になって、恐縮だが、わたしにも、思いあたる節がある。　幻想にとりつかれていたといっても良いのだと思う。　多くの皆様が、わたしが、牧師になる前には、医療電子機器を開発製造販売する会社に勤めていたことは、ご存知かと思う。日本に本社にある医療電子機器メーカの、アメリカ業務販売子会社責任者として97年に赴任した。92年には50億円の売り上げがあった会社が、どんどん売り上げを落とし、20億円程度に、最高潮のときから60パーセントも売り上げが落ちてしまったのが、97年の時だった。　しかし、わたしが赴任前二年間、所属していた技術部門から販売されるシリーズ商品群の宣伝も開始して、アメリカでの売り上げはすぐに50億円に挽回できるという、ビジョンを描いていた。

そして実際にどういうことになったかというと、品質上の問題から、販売予定だった商品はアメリカ市場への販売がとりやめとなってしまった。　同時にアメリカでのソフトウェア開発子会社の責任者は、癌となりなくなることになる。売り上げ増の目玉だった事が次々に断たれ、描いた売り上げ増のビジョンは、逆にさらに減少傾向をたどらざるをえなかった。赤字はふくらみ、借金は増えた。その当時を振り返ると、幻想を見て、それに捕らわれていたと思う。そして、その幻想が全く現実からかけ離れていくなかで、悩み苦しんだ。しかし、毎週の日曜日に礼拝に出るなかで、それは、自分の間違った判断や、すべての過ちを、赦してくださる、聖霊の息吹を感じた。

日常の悩み苦しみを、すべて横におき、御言葉に集中する、時間と空間があった。　自分勝手な思いにより失敗した自分を、そのまま受け入れてくださる、真の恵みをいただくことができた。

ただ、礼拝に来るよう、導かれた。　そして信仰生活を続けるなかで、今の会社の売り上げで悩んでいることよりも、もっともっと重要で価値のあるものに気付き始めた。　御言葉であるイエスご自身が自ら、語ってくださったように感じている。　特に、聖餐式では、いってみればうつ病のような自分が、正気にもどされるような気持ちさえしていた。そして、将来には、牧師になった方が良いのではないかと言う方々が現れた。

怠慢や誤まった状況判断から、進んでいるつもりでも、いっさいなにも前進していない、あるいは、後戻りすらしているときがある。　いわゆる空回りだ。しかし、そこにイエスが近づいてきていることをご存知だろうか。イエスがいったいどれだけのことをしてくださっているか、気付いているだろうか。この教会のカウンセルメンバが、教会のスタッフが、イエスがいったいどれだけの犠牲を払い、教会に力を与えてくださっているかを。

あるいは、わたしたち一人一人に、礼拝と、その時に流れる音楽や御言葉を通して、あるいはさまざまな地域社会に奉仕するさまざまな教会活動を通して、どれだけ恵みを与えてくださっているか？

わたしたち、ヨーロッパ系アメリカ人が圧倒的多数を占め続けている。アメリカ福音ルーテル教会の問題は、横においても、いつも礼拝に参加して、赦しを乞い、イエスの十字架と死と復活を覚える中で、罪の赦しが与えられることに、実は、とてつもない恵みが含まれており、その良きしらせが毎週語られる中にとてつもない恵みがある。